

日本法哲学学会大会 2016 ワークショップ・レジュメ  
橋本努

■拙論「自律していない者たちの社会契約——リバタリアン・パターナリズム論の射程」  
内田隆三編『現代社会と人間への問い いかにして現在を流動化するのか?』せりか書房、  
2015年11月刊行、377-397頁、所収

1. 「システム1」と「システム2」の連携パターン
2. 根源的な問題設定: 「チェスの名手」とその「解説者」
3. 「リベラルな啓蒙主義」vs「成長論的自由主義」
4. 理性の怠惰傾向に対処する政府
5. 「自律養成願望」と「自律代行願望」
6. リバタリアン・パナリズムの要求を超える

→バイアスを矯正して「合理的経済人」に近づけるのか、それとも「システム1の豊かな生成」を促すのか。

■拙論「リバタリアン・パターナリズム批判——いかなる介入を正統化すべきか」上・下  
『思想』2016年8月号、63-77頁、および9月号、109-129頁

1. 範例としてのカフェテリア問題【厚生主義／習慣的選択への反省／自由尊重への配慮  
／賄賂の最大化／利益最大化／慣習的判断／機能的判断／美的判断／容姿への反省意識の  
要請／追加情報による判断／アドバイス情報の追加／アスリート・モデル】

2. この思想の創造的な特徴

- (1) リバタリアニズムから一步先へ
- (2) 適用範囲は限られているはずなのに創造的
- (3) 合理的経済人を想定するわけではない

3. 批判者たちを包摂する戦略

- (1) 主体化型リベラリズムを包摂する
- (2) 熟議民主主義を包摂する
- (3) 限定合理性学派を包摂する

4. どのリバタリアン・パターナリズムを支持するか

- (1) コロブキンの類型
- (2) 新たな類型の提案【事前／直接、代行／支援 理性／判断／意志】

5. 活動モデル（アーレント）による政府介入擁護論

→「活動型福祉国家論」のビジョンを新たに提案

■関連拙稿「福祉国家の哲学的基礎——潜勢的可能性としてのケイパビリティ」上・下『思  
想』2015年4月号、51-71頁、および2015年5月号、68-87頁、所収